

令和5年度 第2回学校関係者評価委員会 報告書

認定こども園かいけ心正こども園

○評価日 令和6年2月28日(水) 10:30~11:50

○場所 かいけ心正こども園 会議室

○出席委員

学校関係者評価委員	所属	出欠
A委員	小学校 校長	○
B委員	公民館 館長	○
C委員	主任児童委員	○
D委員	連携保育園 園長	○
E委員	保護者会 会長	○

○園からの資料・・・別紙参照① 令和5年度 自己評価公表シート

別紙参照② 令和5年度 学校評価保護者アンケート

○園からの説明に対して、学校関係者評価委員の皆様からの意見

【A委員】

- やっている取り組みには意味があるので、なぜするのか、何のためにするのか、毎回確認する必要がある。やっていることに満足するのではなく、こどもがどう変化しているか、満足しているか確認していくことは重要である。
- 小学校も実際職員が足りない状況である。今後、教員の魅力を伝えていき、人材確保につなげていく。
- コロナ前に戻すだけでなく、とにかく教員も健康でないといけない。元気であれば、しっかりとして指導につながる。

【B委員】

- 危機管理については、先生同士のコミュニケーションが大切である。危機管理がしっかりできれば、こどもの安全につながる。

【C委員】

- 事故や事件が起きる度に様々な規制がかかり、先生たちの負担が増えると思う。そんな中で、働き方改革をどうしたらいいと思うか。
- ⇒外部機関や外部講師等を頼ることも大事だと考える。例えば、園で陶芸粘土を焼いているが、陶芸家をお願いすれば、業務効率になり完成度も高まるのではないか。このように、少しずつ今やっていることを見直しして働き方改革につなげていく。
- 支援が必要なこどもに対して、加配がつくこともあると思うが、本人の安全と他のこどもとの安全担保はどうしているか。
- ⇒保護者とのコミュニケーションを密に取って、日々連携を図っている。信頼関係を大切にしている。

【D 委員】

- 自園でも職員のことを一番に考えて、保育を優先し、休みを積極的にとれるような環境にしている。
- 時差出勤の職員には、こどものことについて情報共有のための手段が必要なので、外部に漏れない、誰でも見れるパソコン（タブレット）が必要だと感じた。
- 行事は、コロナ前のように元に戻すことができないので、精査しながら実施している。

【E 委員】

- こどもが園で先生に褒められたことを家で話してくれる。先日のうずらの卵の死亡事故があった際には、「今日給食の時に先生が言ってた」と教えてくれた。バスの閉じ込め事故の時に園で教えてもらったことを思い出し、「もしもの時には、おしりでクラクションを鳴らす」ことを言っていた。園では、リアルタイムで、指導してもらっている。園で様々な活動をさせてもらっていて、先生方には一つ一つ丁寧に指導していただいている。

⇒園からの回答

上記のようなたくさんのご意見を頂きましたので、本年度の園運営や保育に生かしていきたいと考えております。

以上